

「不要品」を
活かす

事例

20

販売店

家具チェーン店の引取り家具を定期回収

新品家具納品時に引取ったソファや テーブル、ベッドマット等を毎日回収



専用車で朝と夜に毎日回収訪問
引取った全ての家具をリサイクル処分

解決

当社は家具や什器含め全ての不要品を回収する専用車を保有しており、東西に中間処理場も設けている為、定期回収に対応できる体制を整えている。

不要物を「バクカン」に集めて回収する「アームロール車」と、引取り時に物を粉砕して回収する「パッカー車」、それ以外の荷物を収集運搬する「2t～10tトラック」など計30台程揃えている。

本案件では、家具店が持つ大阪の倉庫と東京の倉庫に引取りされた家具を毎日朝と夜に回収訪問している。

主にソファ、テーブル、箆笥、机、椅子、ベッドマットを中心に混合廃棄物となる家具や木材中心の家具、それ以外とを分別し回収。

回収した家具は東西にあるリサイクルセンターで計量し、計量証明書と manifests を発行。manifests は電子版にも対応している。

本案件では毎月500tほど家具類を回収しており、最終的に鉄等は原料として再利用するマテリアルリサイクル処理を施し、木材等は燃料として再利用するサーマルリサイクルの処理をしている。

検討課題

新品の家具納品時に不要となる家具を引き取っていた家具販売チェーン店。

引き取った家具が日々倉庫に溜まっていった。修理して販売出来る物と廃棄する物に分別していたが、処理が追い付かない状態だった。

また、家具引取り時の梱包材も大量に溜まっておりそれらの処理にも手間がかかっていた。

新品納品時に引取った
家具が倉庫に山積み



その場で粉砕可能な
パッカー車



バクカン積荷回収の
アームロール車



1日2回
回収訪問

POINT

1. 毎日定期回収
2. 専用車
3. 計量証明書